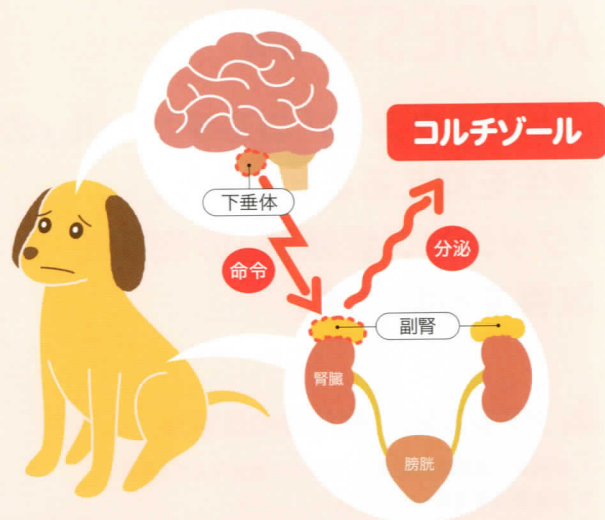


「クッシング症候群」とは、副腎で作られる「コルチゾール」というホルモンが過剰に分泌されることにより起こる病気です。犬の内分泌（ホルモン）の病気としては最も多くみられ、8歳以上の高齢犬で比較的発生が多い病気です。

原因は・・・



#### 原因1 下垂体の腫瘍

脳にある下垂体という器官は、副腎から「コルチゾール」の分泌を促すホルモンを分泌しています。下垂体に腫瘍ができると、このホルモンが過剰に分泌され、そのため副腎から「コルチゾール」が過剰に分泌されるようになります。

#### 原因2 副腎の腫瘍

副腎が腫瘍化して大きくなると、「コルチゾール」が過剰に分泌されるようになります。

診  
断

「クッシング症候群」が疑われる症状がみられた場合、診断のために血液検査や超音波検査などを行います。

人と動物と環境の共生をになう  
**共立製薬**  
東京都千代田区九段南1-5-10

<http://www.kyoritsuseiyaku.co.jp>

● 詳しくは当院へご相談ください

# クッシング症候群って？

(副腎皮質機能亢進症)



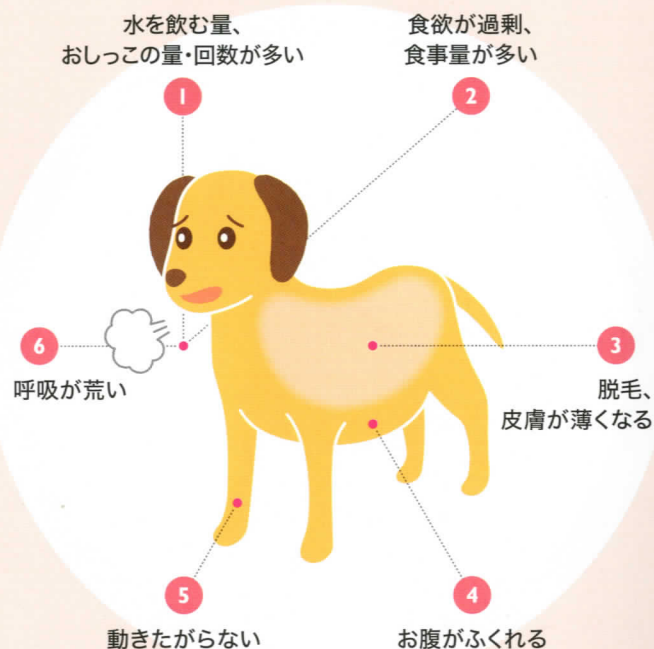
  
**ADRESTAN<sup>®</sup>**

# 「クッシング症候群」って

(副腎皮質機能亢進症)

## どんな病気?

### 主な症状

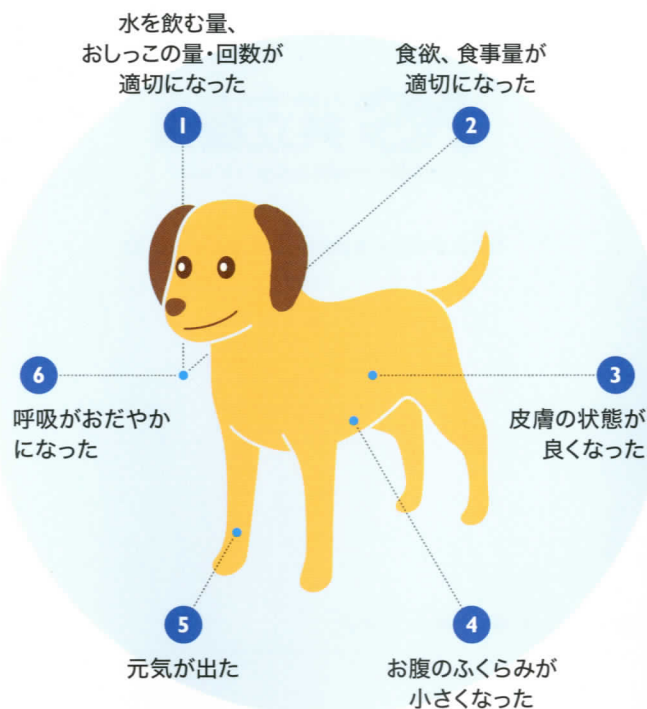


※番号は症状として現れる割合が多い順

# 「クッシング症候群」の治療

薬物による治療、外科的に腫瘍を切除する治療、放射線治療などがあります。腫瘍を切除することが根本的な治療となりますが、切除できないことも多く、薬物による治療が一般的です。しかし、薬物治療は症状を緩和することが目的であり、病気が完全に治るわけではないため、投薬を継続する必要があります。

### 症状改善のポイント



1・2 については、投薬開始から2週間程度で改善することが多い



## ADRESTAN<sup>®</sup>

アドレスタン<sup>®</sup>は「コルチゾール」の産生を抑えることにより、「クッシング症候群」の症状を改善する薬です。

### ! アドレスタン<sup>®</sup> 投与時の注意点

- 1 獣医師に指示された量を、食事と一緒に与えてください。
- 2 投薬後は手を洗ってください。
- 3 妊娠中、あるいは妊娠予定のある方は、本剤を扱わないでください。
- 4 獣医師の指示なしに投与量を変更しないでください。

### ! ご家庭での注意点

投薬を始めたら、ご家庭での様子について注意深く観察してください。何かおかしい(元気がない、食欲がない、嘔吐や下痢をするなど)と感じたら、投薬を中止し、速やかにかかりつけの獣医師に相談してください。

## 動物病院で定期的に検診を受けましょう!

アドレスタン<sup>®</sup>による治療を始めたら、定期的に検診を受ける必要があります。指示された日に、きちんと受診するようにしてください。



全ての症状が必ず起こるというわけではなく、犬によって症状の出方はさまざまです。